



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園緒方中学校 学校だより

青雲の大志

令和7年3月27日

NO.78 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

令和6年度 修了式

式辞

先ほど、各学年の代表に修了証を渡しました。これは、「法律で、それぞれの学年で学ぶように定められた教育内容をしっかり学びました」という証です。一年間、皆さんが努力し、成長してきた証でもあります。支え、応援してくださっている家族や先生方、地域の皆さんに感謝の気持ちを持ちながら、今一度、この一年の自分を振り返ってみましょう。

一番頑張れたことはどんなことですか？一番悔しかったことや後悔していることはどんなことですか？うまくいったことも失敗したことも、満足できたことも叱られたことも、13歳、14歳のみなさんには全て成長の糧になっているはずです。ただし、成長の度合いに個人差は感じます。ぐんと遅くなった、ぐんと大人になったと感じる人に共通していることは、「挑戦している」ことです。

卒業式のとき、「ハートのアンテナ」の出だして、伴奏者と指揮者の呼吸が合わない場面がありました。傍で見ていた私は、一瞬ヒヤリとしましたが、田上さんは慌てることなく「もう一回」と指揮者に伝え、佐藤さんも冷静に対応しました。そして、みなさんも動揺することなく、素晴らしい歌声で卒業生を送ってくれました。私は、そこに緒方中生徒の「気品と力強さ」を感じました。

特に、田上さんは、ピアノ伴奏に挑戦し、何度も折れそうな心を奮い立たせながら練習している様子がありました。アクシデントに決して強くはなかった彼が、ここぞという時に見せた冷静さ、心の強さは、挑戦し努力した結果得られたものだと思います。

また、指揮者の佐藤さんは、合唱練習の時に、言いにくい辛口のコ멘を7年生にしっかり伝えたと聞いています。みんなが真面目にやってくれないと、不満をこぼすのではなく、しっかり伝えるというリーダーシップは、指揮者に挑戦したことで得られたことであり、卒業式のあの場面では、一緒に頑張ってきたパートリーダーをはじめ、合唱する仲間を信頼しているからこそ、田上さんの「もう一回」に対応できたのだと思います。

私が、成長したなあと思う人の中には、目立たないところで「挑戦」してきた人もいます。

短時間で手際よくパツパツとできるタイプではないけれど、時間をかけて丁寧に課題をやり遂げ、実力をつけてきた人がいます。きっと、途中で面倒くさくなることや投げ出



したくなることがあると思うのですが、丁寧にやり遂げることを続けています。自分の苦手克服に挑戦し続けることで、逞しさが生まれ、人から頼られる存在になってきました。

挑戦のないところに成長はないのかもしれませんが、少しくらいみっともなくとも、失敗することがあっても挑戦してみてください。そもそも中学校は失敗が許される場所なのです。来年度、4月からの新しい年度は挑戦の年になることを期待しています。

最後にもう一つお話をします。

先日実施された高校入試の国語の問題に「森と、母と、わたしの一週間」という物語の一部が出題されていました。解いてみた人もいると思います。その中で、幼稚園の先生がこのように語っています。

「しんどいときに『助けて』って言えないと困るから、わたしたち、あやめちゃん（しっかり者の幼稚園児）が自分から『助けて』っていえるようになるのを、ずっと待っているの」と。

きつい時、苦しい時に「助けて」とか「手伝って」とか「話を聞いて」と弱音を吐けるのは、弱さではなく強さです。スクールカウンセラーの石川先生もおっしゃっていました。「なんでも一人で抱え込んで自分だけでなんとかしようとするのは自立ではなく、孤立です」と。

「助けて」と言える友だちはたくさんはいりません。中学時代に一人見つけられたら、その人は生涯の宝物です。そして、緒方中学校の先生方は、私の自慢の先生方です。頼りになります。生徒思いで、職員室ではみなさんの小さな成長を喜びあったり、心配なことを相談し合ったり、どうやって指導しようかと作戦を立てたりと、生徒愛にあふれた職員室です。4月になれば先生が何人か変わりますが、この雰囲気はきっと変わらないと信じています。困ったとき、上手くいかない時、どうしようもなくイライラした時、相談してみましよう。それも自立への一歩なのです。

皆さんが夢の実現に向けて、心も体も健やかに成長することを願って修了式の式辞とします。